

第2回 富山広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 議事要旨

日 時：平成30年11月19日（月） 10：00～11：40

場 所：富山市まちなか総合ケアセンター 地域連携室

出席委員：（順不同）

中村 和之	富山大学経済学部 教授
長尾 治明	富山国際大学現代社会学部 教授 ※座長
石倉 慎也	(株)日本政策投資銀行富山事務所 所長
原 保広	富山公共職業安定所 所長
舘 良一	(株)シー・エー・ピー 代表取締役会長
野尻 昭一	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 会長
今家 英明	滑川商工会議所 会頭
永長 信行	社会福祉法人中新川福祉会 理事長
深川 泉美	舟橋村教育委員会 教育委員
伊井 謙治	上市町体育協会 会長
酒井 重人	上市町区長協議会 会長
高見 政次	立山町東谷地区自治振興会 会長
久保田 真砂美	雄山中学校 PTA 幹事（県 PTA 連合会 参与）

オブザーバー

前佛 聡	富山県地域振興課 地域活力・中山間支援班 班長
伊藤 竜二	富山県地域振興課 地域活力・中山間支援班 主事

議事内容：

1. 開会
2. 資料説明

○資料1、2にもとづき「連携事業及び成果指標（KPI）の実績について」、資料3にもとづき「富山広域連携中枢都市圏ビジョンの改訂（案）について」、資料4にもとづき「新規連携事業（案）について」、資料5にもとづき「富山市SDGs 未来都市について」を事務局より説明した。

意見交換

（委員）

様々な連携事業の取組により、成果が出ている。

今後は、この圏域全体での医療をどう構想していくかであるとか、施設全体のマネジメント、あるいは長期的な配置を含めた計画というところを次のステップとして踏み込んでいくことが大事である。

目標人口と推計人口の差が縮まったことはいい傾向で、今後、地域全体、圏域全体での人材戦略も重要になってくる。高齢者の比率が高まっていく中で、そういった方々の生活を支えていく人

材確保と、将来的にこの圏域の基幹産業をさらに伸ばしていくための人材確保を、圏域全体として大きな展望の中で取り組むことが必要ではないか。

(委員)

滞在型観光連携事業で、誰を対象にしたルートを作るのか、そういう方針のようなものが見えないという感じがした。

1人1人という単位のプロモーションというのでも必要なのかもしれないが、年間1千万人という大きな目標をたてるならば、例えば、コンベンションや修学旅行など、もう少しまとまった単位でのプロモーションはどういう風に考えているのか教えてもらいたい。

(事務局)

団体よりも個人旅行者が増える傾向にあり、個人旅行者を対象としている。

大手の旅行代理店が組むような商品だとパッケージ化されていて、突発的な希望に対応できないということで、比較的、地域住民が知っているような観光資源を盛り込んだ小回りの利くルート化を検討している。例えば「少し時間ができたけれども、半日で見て回れるルートはないか。」といった要望がある方々に周知を図っていきたい。

また、観光コンベンションの誘致等については、富山市において会議系、スポーツ系の団体の誘致を目的に補助金の交付を行っており、富山コンベンションビューローと連携を図りながら首都圏において誘致活動を行っている。また、関東・関西の大学にも出向いて、特に旅館組合が中心となり、合宿等の誘致活動についても積極的に行っている。

(委員)

個人旅行者を中心にするということであれば、単に観光ルートという問題よりも、むしろ「食」という部分をクローズアップした形で、プロモーションまたは開発していくということが求められると思う。

(委員)

全体としては、SDGsを始め、いろいろと項目が追加されており、非常に良いと思っている。金融の立場から申し上げれば、官民連携という点でPPP・PFIの活用、推進をお願いしたい。富山市ではプラットフォームを作っており、財務局や民間企業と一緒に勉強会やワークショップを実施しているが、ぜひ広域連携の観点で、いろいろなノウハウや知恵等をこの圏域の中で広めていくというようなことをやるといいと思う。

計画期間内ではなくても、いずれはモデル事業のようなものができればいいのではないかと、すでに取り組んでいる自治体や圏域もあるようなので、ぜひ取り組んでもらいたい。

(委員)

先日、ねんりんピック富山の開催では、多くの方が来県され、各地域ではいろいろな行事が催された。そのような大きなイベントがあった時に、この圏域ではどれくらいの効果があったのかと思った。

また、世界が自国至上主義のようになってきているが、この圏域において連携を阻害する要因のようなものはあるのか。

(事務局)

ねりんピックについては、県内の 15 市町村全てで種目を担当しており、全 27 種目の内、富山市では 7 種目が開催された。滑川市や舟橋村、上市町、立山町においても、それぞれいくつかの種目を担当されたが、連携中枢都市圏としての効果は分からない。

県で発表されたのは、4 日間で選手は約 1 万人、応援者や役員等を含めると、4 日間で延べ 55 万人が富山県に集まったということであった。

また、今は施設の相互利用や広域的なサービスの提供ということで、それぞれがプラスとなるよう連携事業を展開しているのが、現時点では阻害要因のようなものはないと思っているが、例えば、今後の話として、何かのサービスを集約するとか、施設を圏域としてどうするかということになれば、言われるような話もあるかもしれない。

(委員)

働いている人の数が増えているということがなかなか見えにくい中で、雇用保険の加入者を見ると、この圏域において、特に富山市では、去年の 9 月と今年の 9 月を比較すると、1.3% 就業者が増えている。女性の就業者も増えているが、中でも 60 歳以上の高齢者が去年と比較して 8.6% 増と特に増えている。また、求人倍率も、この地域は 2.07 倍と全国と比べて非常に高くなっており、労働力不足の状態である。

こうした中で、外国人労働者の受入れの話が今国会で議論されているところだが、元々いる外国人に加えて、高齢者を支える福祉人材や、今までの技能実習制度であまり活用されていなかった分野にも外国人が入ってきて、そういった方々が長いスパンで住むことも考えられる。

そうすると人口が一時的に増え、人口推計として将来的な数値が見えにくくなる可能性もあることから、従来の捉え方と違うようなところが今後出てくるのではないかと。

(委員)

福祉施設等の相互利用は非常に良いことと感じている。

滑川市は 3 万人程度の人口規模であり、富山地区や新川地区とのつながりの中で、広域性をもったいろいろなグループが、お互いに何をしているのかということを感じながら、様々なことに取り組むべきだと思う。

例えば、滑川市では観光船を 2 隻持っており、その内の 1 隻は市が所有している。

それをどう有効利用するかを考えたときに、射水市や氷見市、富山市の岩瀬などと団体の観光客を受け入れて通年利用するといったことが考えられる。

これまでのつながりだけではなく、様々な地域とのつながりを大事にしていかなないと、滑川のような市は生き残れない。

県とのつながりや他のグループとのつながりを含めて見える化をしていけば、事業によっては、もう少し有効な活用ができるだろう。

(委員)

舟橋村では、若い人たちのために住みやすい村づくりがかなり進んでおり、新聞にも取り上げられている。

その背景には、連携中枢都市圏のような制度があった上に安心して村の施策が実施できているという部分があるので、そういう意味で、舟橋村にとっても大変ありがたい制度である。

来年4月、プロを含めた音楽活動を盛んにしていこうという目的で「富山音楽文化協会」が設立される。現在、音楽活動というのは、点になってしまっているが、それを線にし、さらに面にしていこうとしている。面への展開を目指すという意味では、この富山広域連携中枢都市圏ビジョンに合致するものがあるのではないかと思うので、音楽に限らず、文化面でお役に立てればと思っている。

(委員)

大変行き届いた事業になっていると感じた。

小さな舟橋村にとっては大変ありがたい、本当に良い事業で感謝している。

欲を言えば、これらの事業は1人でもより多くの方に知ってもらい、さらに浸透していけば、住みやすい安心したまちづくりがもっと築いていけるのではないかと感じた。

(委員)

先のねりんピックのような大きなイベントが開催されると、延べ50万人以上の方が1週間近くにわたって滞在され、そのことによって大きな経済効果が生まれる。

また、スポーツ振興の観点からみても、将来を担う子どもたちの夢や戦う意識が非常に高まることから、特に富山市を中心として、それぞれの地域で特色あるいろんなスポーツ大会を年に何回か開催することができればと思う。それも定期的に行うことができれば2020年の東京オリンピック・パラリンピックが迫っている中、富山県のスポーツ人口の拡大と競技力の向上に寄与できるのではないかと考えている。

また、子どもの数が非常に少なくなっており、特に来年の1年生の入学者は激減している。

上市の中でも一番大きいといわれる上市中央小学校の来年の入学者は50人を切るということである。

何とか若者の定着と世帯数の増加を目指す中で小学生が増えないか、この圏域としてどういう役割があるのかなど、今後の課題だと思うので、ぜひ皆さんの知恵を借りたいと思っている。

(委員)

先ほど滞在型観光に関して、個人の空き時間を活用した観光というような話があったが、以前、富山駅に台湾の方がたくさん来ておられ、切符の購入にしてもボランティアの方がいろいろとサポートしておられた。

そういう姿を前にし、個人の方が滞在されるにあたっては、案内板の掲出やボランティアの育成といった取組があってもいいのではないかと思った。

また、ビジョンの改訂案に、富山市のSDGs未来都市について追加があった。

これまで富山市が進めてきたコンパクトなまちづくりにおいて、周辺地域をどう捉えていくのか、

広域で考えたときにどうするのか疑問に思った。今後、実行に向けては何らかの議論や対策が必要だと思った。

(委員)

子どもの医療費助成事業における広域サービスの提供により、どの保護者からも、非常に助かっているという声が多い。

特に小・中学生の子どもは、専門的な治療が必要になることが多く、そうした中で、富山市には医療機関が多く、選択肢が広がるということで大変助かっている。

また、2020年夏に富山県でPTAの全国大会が開催される予定になっている。

8千人という規模で全国から来県されるので、運営に関わる者として、この圏域の観光資源などについても積極的にPRしていきたい。

(委員)

鳥獣被害対策について、今年、町から補助をもらい、仕切りのある電気柵を張った。

非常に効果が出ており、被害が少なくなっている。

しかしながら、せっかく地域で懸命に取り組んでも、町と町の境が抜け落ちてしまっており、そういうところをぬってイノシシが民家に入ってきてしまうと効果も小さくなるので、各市町村が連携して対策ができれば良いと思う。

また、非常にすばらしいビジョンがあって取り組んでいるのに、いろんな地区の住民に「例えば、こういうビジョンがあるがどうか。」と聞いても、知っている人がほとんどいなかったもので、様々な機会を捉えて周知を図ってもらいたい。

(オブザーバー)

富山広域連携中枢都市圏は、昨年度から事業計画を立てて取り組まれているところで、概ね効果が出ているのではないかと。今後、ますますこういった連携中枢都市圏での取組が大事になってくるのではないかと考えている。

国においては、東京一極集中の動きがなかなか止まらないということで、さらに中核都市に対して機能を強化していこうという動きも出てきている。

今後、富山広域連携中枢都市圏でもさらに取組を推進していけば、中核都市としての機能がますます高まるのではないかと。

県としても、連携中枢都市圏に対する支援をされており、富山市を中心とした取組もさることながら、連携市町村が取り組んだ場合についても支援できるので、積極的に活用していただきたいと思っている。

(座長)

これまでの取組については、KPIにも現れているように、少しずつ効果が出て、順調に推移しているのではないかと。思う。

本日の会議で出していただいた各委員からの意見等については、事務局で配慮いただき、今後の連携事業につないでほしい。